

第8章 河道特性

8-1 河道の特性

神通川は、その源を岐阜県の北アルプスに位置する川上岳（標高 1,625.9m）に発し、岐阜・富山両県を貫流しながら、日本海に注ぐ流域面積 2,720km²、流路延長 120km の富山県内最大の河川である。その平均河床勾配 1/500~1/800 という急流河川で、その関連市町村は、県都富山市を含む 2 県 4 市に及ぶ。神通川では、豊かな水量と急峻な地形を利用した水力発電が盛んである。

神通川は、急峻な溪谷を流下して富山市笹津地先で山地を離れ、20km 付近で西派川を分流し、18km 付近で再び西派川を合流させ、右支川の熊野川、左支川の井田川を合流して富山平野を流下し、日本海に注いでいる。

神通川上流域には、飛騨高原が広がり、高原を侵食する多くの支川と、これにより形成された高山、古川等の盆地群がある。

支川のうち、中部山岳地帯の槍ヶ岳、穂高岳に発する蒲田川一帯の地形は急峻で、両岸の山腹は迫り、崩壊が多発している。古くから火山活動を続けている焼岳や乗鞍火山群の火山性荒廃地帯を源とする平湯川付近には河岸段丘による台地が広がっている。この平湯川と蒲田川が合流して高原川となり、しばらくは河岸段丘による台地が形成されている。

中流域では、山地が迫っていて溪谷が続き、下流域に入り常願寺川と神通川による複合扇状地を形成し、そこから下流には富山平野が広がっている。

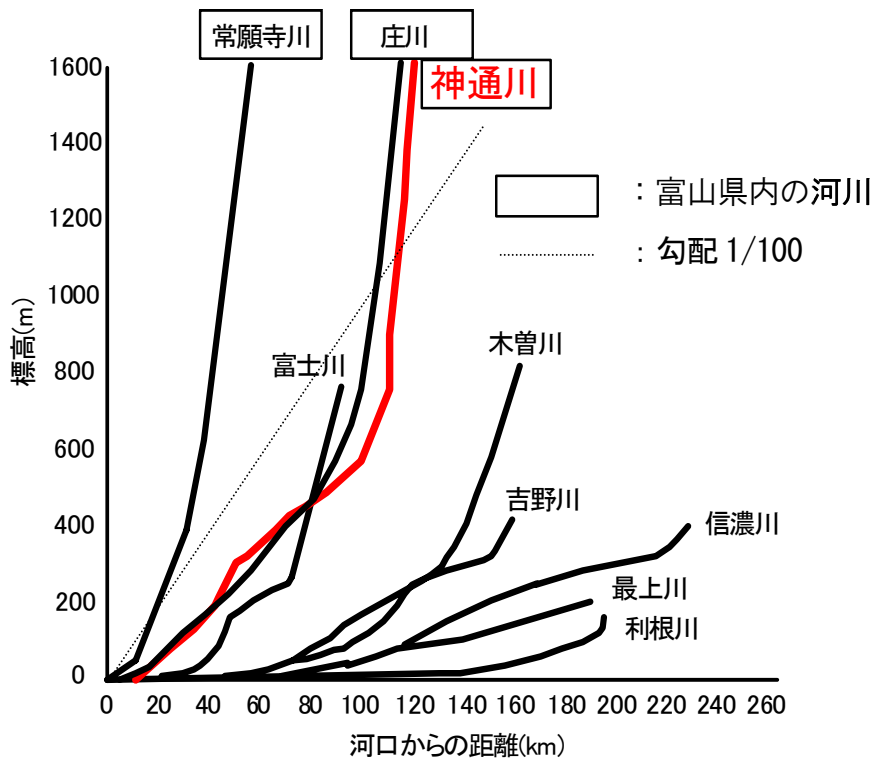
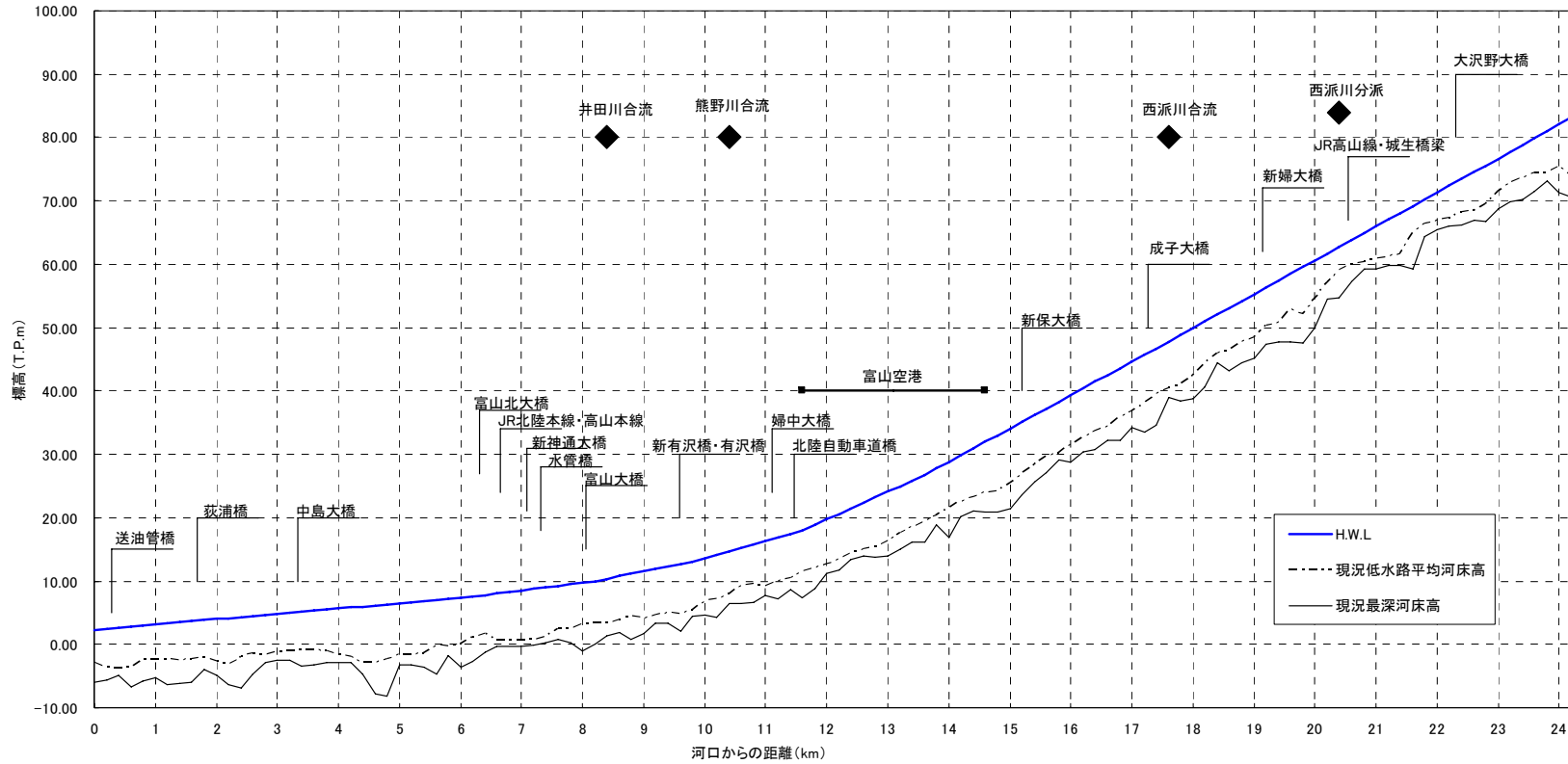


図 8-1 他河川との比較



距離標	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	24.2
計画高水位 (T.P.)	2.32	3.16	3.99	4.82	5.65	6.49	7.31	8.53	9.76	11.49	13.54	16.33	19.73	24.08	28.80	34.06	39.32	44.59	49.91	55.26	60.62	65.97	71.35	76.68	82.03	83.10
平均河床高 (T.P.)	-2.85	-2.35	-2.72	-1.29	-1.63	-1.52	0.13	0.68	3.18	4.15	6.85	9.24	12.73	16.31	21.57	25.45	31.43	36.85	42.39	48.54	54.56	60.99	66.91	71.58	75.52	73.88
最深河床高 (T.P.)	-5.89	-5.31	-4.82	-2.45	-2.82	-3.32	-3.57	-0.38	-1.12	1.65	4.59	7.74	11.14	14.01	16.94	21.44	28.78	34.17	38.78	45.16	50.01	59.33	65.47	68.81	71.30	70.51

図 8-2 神通川現況河道縦断面図